

特集 文化芸術の灯を守る

問い合わせ 文化・観光・スポーツ課 ☎072(740)1106

感動や安らぎ、生きる喜びをもたらしてくれる文化や芸術。新型コロナウイルス感染症で大きな影響を受けています。文化や芸術の灯を消さないために、市は2年度から、市内を中心に活動するアーティストを支援。ここでは、3年度の支援事業「KAWANISHI ART PROJECT with CORONA」に参加した、市立ギャラリーかわにしで展示会を行った3組と、オンラインで動画を配信している川西北陵高校文化部を紹介します。

アートでまちを彩る

夫婦アートユニット meötto さん

市立ギャラリーかわにしはアクセスが良く、本当に幅広い世代の人にご来場いただきました。期間中に友達や家族を連れ、何度も足を運んでくれる人も。癒された、温かい気持ちになった、などうれしい言葉も聞くことができました。

SNSなどの普及で、人と人がつながる手段は増えました。コロナ禍でもできることを、と私たちはInstagramのライブ配信で絵本紹介などに挑戦してみました。でも、市の支援事業を通して、お客さんの表情や反応を直に感じられる喜びや幸せに勝るものはないと、改めて思いました。

将来は、川西でギャラリーカフェを開きたいと考えています。みんなで集い、文化や芸術から得られるパワーを分け合って、まちを元気にしていきたいです。



profile

市在住。絵本作家イケダコウスケさんと、ファンタジー猫イラスト作家Yukichiさんの夫婦アートユニット。共同で作品を制作。詳しくは各公式SNS(右の2次元コードからアクセス可)へ。



profile

市出身。主に日本画材を使った植物や月をモチーフにした絵画を手掛ける。絵本やボディペイントなども制作。詳しくは公式Instagram(右の2次元コードからアクセス可)へ。



希望を届けたい

画家・painter 猪瀬名月さん

コロナがはやりはじめたころ、アートは不要不急といわれ、展示会などを開催すると批判される風潮がありました。苦しく、もどかしかったですね。展示会ができない期間は力を付けようと気持ちを切り替え、ひたすら制作に打ち込みました。

でも、アートは作者や作品だけでなく、応援してくれる人がいてこそ成り立つもの。市の支援事業への参加は、新たなつながりが生まれ、また、支えてくれる人たちに感謝の気持ちを再認識できる機会となりました。

私のアートは、「生きることを肯定する」がテーマ。コロナ禍で、生きることがつらく、苦しいと考える人が増えたと思います。私の作品で希望を感じてもらえるよう制作を続けていきます。

新たにできた縁 心の支えとなる作品を

profile

市出身・在住。小学3年生で訪れた奈良で仏に興味を持ち、仏画家を志す。京都造形芸術大学(現京都芸術大学)を卒業後、猪名川町で開いた「岡本仏画工房」を拠点に活動。作品など詳しくは公式Instagram(右の2次元コードからアクセス可)へ。



見て、ふれて、知ってほしい

私は受注してから制作に入ることが多いです。常に手元に作品がある訳ではないので、展示会をすることは滅多にありません。市のアーティスト支援事業への参加は、川西の人に作品を見てもらえる良いきっかけとなりました。同じ時期にテレビ番組で紹介されたこともあり、約1200人にご来場いただいたんです。この事業を通して新しい出会いがあり、また、色んな人に関心を持ってもらうことができました。できたつながりを大切にしていきたいですね。

また、コロナ禍で不安を感じている人も多く、心のより所がほしいと作品を求められることも増えました。私の作品を見て、少しでも不安が和らげばと思っています。

作品作りの他に、日本画教室を月に2、3回行っています。コロナで一時中断しましたが、継続を望む声が多く、現在は再開しています。天然鉱物などから精製した顔料と、動物の皮から作られる展色材「膠」とを混ぜ合わせる技法。和紙や絹に描く方法など、私が用いる技術は、明治以前に絵を描く際に主流だったもの。戦後、近代化や外国文化の流入によって廃れ、これらの方

法で描いている画家は、少なくなっています。

文化や芸術は、一度なくなってしまうと、再興は難しいです。当時の物や材料を再現できても、使う側の技術や知識がなければ、「本物」とは言えません。文化や芸術を後世へ遺すために、まずは知ってもらうことが重要です。

コロナや社会変化などでも、文化や芸術を途絶えさせてはいけません。作品を生み、伝えていく。それが仏画家としての、私の役割だと思っています。



1_ 3月に市立ギャラリーかわにしで行った展示会の様子。多い日は300人近くが来場した
2_ 依頼者の要望に合わせて、下図から彩色まで1点ずつオーダーメイドで制作する

市公式 YouTube
チャンネルで公開

オンラインで文化芸術を楽しむ

問い合わせ 文化・観光・スポーツ課 ☎072(740)1106

川西北陵高校文化部や、市ゆかりのアーティストのパフォーマンスや作品、公演を市公式 YouTube で公開。オンライン上で文化や芸術にふれることができます。詳しくは市ホームページ（下のそれぞれの2次元コードからアクセス可）へ。

高校生によるパフォーマンス

4ページでも紹介した川西北陵高等学校の吹奏楽部とコーラス部、女子ダンス部のパフォーマンスを公開しています（女子ダンス部のみ5月末に公開予定）。



演目は、吹奏楽部は「怪物」など、コーラス部は「なんでもないや」など、女子ダンス部は「Birthday」です。



川西市展の入選作品

3年度の市展で入選した作品を動画で紹介しています。

洋画部門や現代美術部門、日



本画部門など、全7部門。また、各部門の一席から三席と奨励賞については、審査員からの講評もあります。



みつなかホールの舞台公演



（公財）市文化・スポーツ振興財団が主催する舞台公演を特別に公開。演目は3年11月公演のかわにし能「巴」「大江山」と、3年12月公演のみつなかオペラ「ドン・ジョバンニ」です。



川西北陵高校文化部が合同発表会Mフェスを開催

仲間と歩んだ日々をカタチに

新型コロナウイルス感染症は学生の部活動にも大きな影響を及ぼしました。学生たちの発表の場を守るため、川西北陵高校は文化部の合同発表会「Mフェス」を開催。コロナ禍での部活動の様子などを顧問の先生に聞きました。



生徒それぞれが輝ける場所を

コロナが流行した令和2年、吹奏楽部では、コンクールや大会などが全て中止になりました。その時の3年生は、悔しさなどを口にせず、事実を受け入れた様子でした。それが余計痛々しく感じましたね。「どうか開催してくれ」と言われる方が、私たち教諭も気持ち良かったかもしれないですね。

いつも参加していたイベントや地域のお祭りも軒並み中止に。地域や外部の人に見てもらえる機会が激減しました。成果を發揮できる場があることは、生徒の目標やモチベーションにつながります。特に文化部は、家族や友達に見てもらえる発表の場は不可欠なんです。部



川西北陵高校 教諭
吹奏楽部顧問
小寺 龍之介 さん

活動も対策をしながら行えるようになりまして。そこで、3年3月に吹奏楽部とコーラス部、女子ダンス部、放送部で合同発表会「Mフェス」を企画し開催。文化部の晴れ舞台をなんとかつくりたい。その一心でした。

校内外の反応も良く、4年3月28日にも2回目をキセラホールで開催しました。3月21日までまん延防止等重点措置期間だったので、直前まで悩みました。しかし、生徒たちの達成感に満ちた表情を見たり、観客の皆さんから好評いただいたりして、開催できて良かったと心から思います。

学校生活で、部活動は授業より優先順位が低いかもしれせん。しかし、仲間と同じ目標に向かって取り組み、そこで得た経験は、人生でかけがえのないものになるでしょう。生徒一人一人が輝ける場所を残したい。コロナ禍でもできることを模索し、挑戦していきたいです。

パフォーマンス動画は5ページから確認できます

Check



苦しい時こそ支えに ともに応援しましょう

市長 越田謙治郎

元年11月、キセラホール1周年記念の[Kawanishi Music Night]が開催されました。市にゆかりのある4組のアーティストが、川西への思いを語り、満員となった会場を魅了しました。胸に込み上げるものがあつたのを覚えています。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、文化や芸術活動が著しく制限され、舞台や展示会など発表の機会は少なくなりました。

市は、2年度からアーティスト支援事業を実施

しています。アーティストに活動の機会を設けるだけでなく、市民の皆さんにとっても貴重な機会だと思えます。

文化や芸術は「不要不急」と位置付けられることが多いです。しかし、先行きが見通せない苦しい時こそ、人の心の支えとなります。また、市ゆかりのアーティストが活躍しているのを見ると、市民としても誇らしい気持ちになります。

4年度も引き続き、市はアーティストを支援していきます。市民の皆さんも一緒に応援してください。

